



ライチョウって知ってる？

ライチョウは、本州中部の標高2,000mを超える高山帯に生息しています。南アルプスでは、静岡市内に位置するイザルガ岳でも確認され、世界の生息地の南限と言われています。最近はその数を減らしており、環境省をはじめとした関係機関が保護の取組を進めています。静岡市でも、ライチョウの生息状況を把握するための調査を実施しています。

Photo: 廣瀬和弘

ライチョウの特徴

＊ 冬は極寒に耐えながら、高い山で暮らしています

標高2,000m以上のハイマツと呼ばれる植物や岩石が多く存在する場所で暮らしています。山頂が雪で覆われる冬は、エネルギーを使わないよう、歩いて移動することが多くなり、休む時も、寒さから身を守るために、空気を含み熱を遮る雪の中にもぐることがあります。



Photo: 廣瀬和弘

ハイマツ

＊ 一年に3回、羽の色が変わります

ライチョウは、体の羽が季節によって変わるのが特徴で、春から冬にかけてその変化をみることができます。羽が抜けるたびに違う色の羽が伸び、体の色が変化していきます。色の変化は、外敵から身を守る保護色と言われています。



夏羽

オス

Photo: 中村浩志

※冒頭に掲載している写真が、秋羽のオスです。



冬羽

奥:オス 手前:メス

Photo: 中村浩志

【参考資料】
ライチョウパネル展2014資料集(報告書)
ニホンライチョウの危機 神の鳥を失わないために(岐阜大学)

南アルプスユネスコエコパーク

～高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性～

2014年6月12日、南アルプスとその麓の地域が、ユネスコエコパークに登録されました。

ユネスコエコパーク（生物圏保存地域）とは、豊かな自然環境とその自然と向き合い、受け継がれてきた地域の文化を守りながら、地域社会の発展を目指す国際的な保護地域のことです。ユネスコエコパークでは、次の3つのことに取り組んでいます。

- 1 貴重な動物や植物、美しい景観をずっと守っていく
- 2 自然環境を守るための調査・研究を行い、自然体験やエコツーリズム等を通じて自然や地域の文化を学び、伝えていく
- 3 豊かな自然や地域の産業、文化等を活かし、地域を発展させていく



10の市町村がユネスコエコパークとして結束

南アルプスに関係する10市町村* が「高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性」という共通の理念を掲げ結束。

南アルプスの自然環境と文化を共有の財産と位置づけ、優れた自然環境の永続的な保全と持続可能な利活用に共同で取り組むことを通じて、地域間交流を拡大し、自然の恩恵を活かした魅力ある地域づくりを図ることを目指しています。

*静岡県：静岡市、川根本町
山梨県：韭崎市、南アルプス市、北杜市、早川町
長野県：飯田市、伊那市、富士見町、大鹿村

南アルプスユネスコエコパーク エリアマップ

登録面積	総面積	302,474ha	(うち、静岡市 48,603ha)
	コア地域	24,970ha	(うち、静岡市 3,051ha)
	緩衝地域	72,389ha	(うち、静岡市 6,171ha)
	移行地域	205,115ha	(うち、静岡市 39,381ha)

自然と暮らしのバランスを保つ3つのエリア

いちばん大切な自然がのこっているところ

そこだけにしかすめない動物や植物がいるところ

みんなでずっと守っていくところ

自然の中で楽しんだり、お勉強したり、いろいろ自然について調べたりするところ

お家とか建てちゃだめだよ

自然の中で楽しめるけど、自然をこわしちゃだめだよ

3つの地域

- 人が住んでもいいところ
- 大切な自然をいつもみているところ
- 自然のめぐみをうけて、いろいろなおいしい野菜やたべものがあるところ
- 自然といっしょにずっとくらしているところ
- 歴史や文化がいっぱいのこっているところ